

卒論の指導を通じ、 学生の能力をいかに 見つけ伸ばしていくか。



現代社会学部准教授
齋藤 基之

【学歴】
1986年3月 筑波大学付属駒場高等学校 卒業
1990年3月 東京大学工学部建築学科 卒業
1992年3月 東京大学大学院工学系研究科建築学専攻修士課程 修了
1996年3月 東京大学大学院工学系研究科建築学専攻博士課程 修了・博士（工学）
1997年7月 東京大学大学院工学系研究科建築学専攻研究生 退学

【職歴】
1997年8月 九州芸術工科大学芸術工学部環境設計学科 助手
2003年4月 愛知淑徳大学現代社会学部都市環境デザインコース 講師
2004年4月 愛知淑徳大学現代社会学部都市環境デザインコース 助教授
2007年4月 愛知淑徳大学現代社会学部都市環境デザインコース 准教授

学生時代、冷え性が苦手だったことから、体に優しい冷房システムを求めて風の研究を始めたという齋藤先生。以後、建築環境工学の分野で多数の論文を発表してきましたが、最初に赴任した大学で学生の教育の面白さに開眼。本学の都市環境デザインコースに移ってから、「学生のモチベーションをいかに高め、納得のいく卒業論文を書かせるか」に腐心し、工学系の卒論の指導では徹夜することもあったり、納得のいく卒業論文を書かせることが多いのですが、「設計プランに数学的、物理的なアドバイスをすると、学生も興味を持ってくれる」とのこと。先生自身も現在、家の設計に関心があるそうですが、専門の「工学的な快適性、安全性」を活かしたものがかと思いきや、「住みやすさにはこだわらない、意匠性、芸術性の高い家を設計したい」と話していただきました。

【齋藤先生の 主要論文リスト】

- 風速変動を伴う温熱環境の評価方法に関する基礎的研究—人体生理・心理面からの検討—, 1996年, 東京大学大学院工学系研究科博士學位論文
- 風向が温熱感に及ぼす影響に関する研究, 1997年, 日本建築学会大会学術講演梗概集 D-2 環境工学II
- Prediction of Clothing Insulation Based on The Questionnaires in Outdoor Environment, 2002年, The 10th International Conference on Environmental Ergonomics
- 放射冷房が人体生理・心理に及ぼす影響に関する実験的研究, 2002年, 日本建築学会大会学術講演梗概集 D-2 環境工学II
- オープンプラン型小学校における快適性に関する研究, 2002年・2003年, 日本建築学会大会学術講演梗概集 D-1 環境工学I



建

築学の中の建築環境工学と呼ばれる分野が私の専門です。建築というと、壁や柱等の「物質」の部分をイメージしがちです。しかし、私たちが日々生活しているのは物質のない部分、すなわち「空間」であり、いかに快適で魅力的な空間を形成するかが建築の大きな役割のひとつでもあります。建築環境工学は、室内や屋外の熱・空気・音環境を対象に研究を行う分野です。

これまでには主に、温熱環境の快適性評価方法に関する研究を行ってきました。風の強弱の変動が温熱的快適性の変動に与える影響、屋外における着衣量の推定方法の開発、学校教室環境の実態調査などです。

現

在は、卒業論文の指導を通じて、学生に研究の面白さと難しさを伝え、それを通じて能力の向上を図ることに力を注いでいま

す。卒論と言ってもオリジナリティを重視しているため、膨大な量の実験調査や解析等が必要となり、学生は今まで経験したことのない忍耐・思考力・精神力を求められます。くじけずにやり遂げさせるためには、学生自身に自分の研究の意義とやりがい認識させる必要があります。

卒

論テーマは、自分の興味に沿って学生自身が決めます。これまで、地下鉄駅構内に吹く風を利用した風力発電、着衣量の違いに着目した電車内の冷房設定温度、男子小使器まわりの個室化、自転車を用いた街づくりの手法等に関する研究指導を行ってきました。どれも本来は本職の研究者が集まって何年も費やすような内容ですが、学生に与えられる時間はたった1年間です。そこで、高度な専門性や精度にこだわるのではなく、アイデアを重視し、多少荒削りでも1年で結論まで到達できるよう指導しています。やり遂げた後の学生の顔つきは、1年前とは明確に変わっています。指導には大きな労力がかかりますが、学生の成長を見ることが私のやりがいであり、喜びでもあります。

学

生の能力をいかに見出し、伸ばし、社会に送り出すか。それが現在の私の研究テーマであり、社会貢献のカタチであると考えています。